

高千穂大学 教職課程だより

ご挨拶

教職課程運営委員会委員長 鈴木隆弘

高千穂大学教職課程で学ばれた卒業生教員の皆様、今年度をもってご卒業される皆様、在校生の皆さん、そして、様々な活動を通じて本学教職課程にご支援を賜っている皆様におかれましては、ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。日頃からの本学教職課程運営へのご理解とご協力に対しまして、心より御礼を申し上げます。

この度、『高千穂大学 教職課程だより』第7号をお届けすることができました。この『教職課程だより』の発行は松丸修三先生のご尽力により2015年度より開始されたものです。本たよりは、本学の教職課程で学んだ卒業生の皆様と在校生、教職員その他の関係者、相互の交流の輪を広げ、絆を深めるとともに、本学教職課程における教員養成のさらなる充実と活性化を図ることを目標としております。

本年は、2020年初頭から蔓延した新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。2020年代について先の読めない時代、予測困難な時代と中央教育審議会は分析をしていますが、まさに一寸先も見えぬ状況の中、進まなければならない年度となりました。

3月から始まった全国学校一斉休校は、4月緊急事態宣言を受け継続され、5月までの約3ヶ月の間、継続されました。その中で、本たよりをお読みの先生方をはじめ、「学びを止めない」ことを目標として、オンライン、さらには文書配布による学習などが進められていきました。ここ高千穂大学でも5月からはオンライン講義が開始されました。秋以降一部教職課程科目での対面講義が実施されましたが、2019年度までのような完全対面講義の再開はまだ先のこととなりそうです。

一方で、2020年度は小学校で新学習指導要領が完全実施されましたが、教職課程でも新カリキュラムが実質的開始の年でした。今年度より教職課程を履修する学生は、従来の教職課程科目に加えて、小学校課程では「英語」「英語科指導法」「特別支援教育」「総合的な学習の時間」と必修4科目8単位が追加されています。これ以外に、教職課程全科目においてコアカリキュラムが策定され、それに従った講義が要求されるようになりました。しかし、上記にもございますとおり、新科目、新シラバスに基づく全講義は、全てオンラインでの実施となり、履修学生にとっても試練の年となりました。模擬授業もオンライン、すべて9月以降に延期となった教育実習。幸い本学では、教育実習受け入れを拒否された学生はおらず、全教育実習生が無事に実習を終えることができました。受け入れ校の先生方に深く感謝を申し上げます。また、本紙面にて紹介の通り「教育実習報告会」も「教員採用試験合格報告会」と2月にオンラインの形で、無事開催することができました。しかし、「高千穂大学卒業生教員と教職履修学生との情報交換会(高千穂大学卒業生教員の会)」は開催できませんでしたこと、深くお詫び申し上げます。

最後に、現在、新型コロナウイルスで闘病中の方、そしてお亡くなりになられた方々に心から見舞いと哀悼の意を表すると共に、皆様におかれましてもくれぐれも健康と感染に留意され、ご活躍されますことをお祈り申し上げます。

(人間科学部)

教育実習報告会（2月13日）

「2020年度教育実習報告会」が2月13日(土)オンラインにより開催されました。

今年度の教育実習はコロナ禍での実施となり、実施が秋へとずれ込み、また、実施期間も3週間に短縮されるなど、例年とは違った形での教育実習となりました。その不安の中での教育実習でしたが、全員、参加することができたのは幸いでした。本報告会は寺内学長の挨拶に続き、商学部からNさん、人間科学部からはMさん、Eさんの3人が自身の体験を通して、感じたことや準備や心がけを報告してくれました。

Nさんからは学生達との距離の取り方、Mさんからは研究授業での心構え、Eさんからは自分の思いをもって実習に参加することの大切さ等の報告がされました。

報告後、リモート参加していた学生からの質問もあり、意見交換が行えたことも来年度以降に繋がるよい学びの機会となりました。そして、最後に松丸修三先生より教育実習参加の学生アンケートを中心にした報告を受け、次年度からの心構えや準備を学ぶことができ、とても有意義な会となりました。
(山田良一)

教員採用試験合格報告会（2月13日）

教育実習報告会に続いて、午後からは「教員採用試験合格報告会」が開催されました。

まずは、寺内学長の開会挨拶から始まり、教員採用試験に合格した学生の報告、鈴木教職課程運営委員長による総括がなされました。

合格体験報告は大学推薦により東京都に合格したGさん、同じく東京教員養成塾より合格したKさん、Mさんの3名により報告が行われました。



Gさんからは小論文や教職教養の事前準備が実際の取り組んだ具体例を挙げ、丁寧な報告がなされました。また、Kさんと

Mさんは合同で「教師になるための試験」をテーマに①合格までの試験の流れ②勉強した方がいいランキング③書籍④後輩に伝えたいことをまとめて発表してくれました。さらに、東京教師養成塾で学ぶ内容も具体的に紹介してくれたことで、後輩たちにとって、参考になったことでしょう。

今回、教育現場で働く先輩による教育実践報告はリモート報告会であるため、実施されませんでしたが、十分に意義のある会になりました。初めてのリモート開催にあたり、機材の準備など多くの方のご協力を頂き実施できたことに感謝申し上げます。また、参加した後輩たちが先輩の後に続きますことを教職課程委員一同、心より願っています。
(山田良一)

*当日の様子(動画)をご覧になりたい方は、教務課教職課程(kyoshoku@takachiho.ac.jp)までお尋ねください。

○本年度教員採用者について

2020年度 新規教員採用者は6名(3月18日現在:教務課把握分、教諭のみ)です。

卒業生教員の皆様におかれましては、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

<小学校教諭採用>

退職のご挨拶

人間科学部教授 松丸修三

松丸修三です。私が高千穂大学の教員として教職課程を担当するようになったのは、今から 23 年前の 1998(平成 10)年のことです。それから多くの月日が流れ、いつの間にか、退職すべき年齢となりました。この『教職課程だより』をお借りして、その退職のご挨拶を申し上げます。

振り返ってみますと、私が着任した当時の大学の名称は高千穂商科大学でした。また、教職課程の学生も商学部生だけでした。『高千穂学園一〇〇年史』によると、着任した 1998 年には、延べ 52 名の教員免許状取得者(高等学校-商業 39 名、地理歴史 4 名、公民 6 名、中学校-社会 3 名)が生まれています。その後、商業高校で学ぶ生徒が漸減し、また、本学に新たに人間科学部(児童教育専攻)が設けられましたので、現在は、小学校の教員を目指す学生が教職課程の多数を占めるようになっていきます。

着任した当時の商学部生には、高校(商業)の教員になりたいと一途に願う者がおり、授業にやりがいを感じることができました。近年の児童教育専攻の学生も、さすがに小学校の先生を目指しているだけあって、明るく、人づき合いがよいように思います。ですので、彼・彼女らとの授業を通しての交流も、とても楽しいものでした。本学の学生は、学部を問わず、一般に個性が豊かで、例えば、次のような学生が私の目の前を通り過ぎて行きました。(1)授業を受けた後、教師の講義ノート以上にすばらしい学習ノートを作り上げ、教員採用試験にも余裕をもって合格した学生、(2)成績はごく普通でしたが、通学の行き帰りや授業の合間にこつこつと勉強し、その努力を教員採用試験で見事に実らせた学生、(3)力不足のために、指導教諭に指示されたような授業ができず、教育実習を途中で止めたいといって、授業予定日の朝 5 時頃私の自宅に電話をかけてきた学生(この学生は、結局、「逃げ出したら、また逃げ出さなければならなくなりますよ」という私の助言を受け入れて踏みとどまり、実習後、何事もなかったかのように明るい笑顔で教室に戻ってきてくれました)、などです。このような訳ですから、高千穂大学での 23 年間の教員生活は、私にはとても刺激的で楽しいものでした。また、彼・彼女らの努力や成長を間近なところから見ることもできたのも、とても幸せなことでした。

ところで、この『教職課程だより』は、2015 年に教職課程運営委員会によって第 1 号が発行されています。実は、その時の委員長は私でした。本学を卒業して教員をされている OB・OG、現に本学の教職課程で学んでいる学生、さらに、本学に在籍されたことはないものの、本学に関心を持ってくださっている方々、これらの三者を結び付けるには、『教職課程だより』のようなものが必要なのではないかと考え、教職課程運営委員会で提案したのがその始まりです。その第 1 号には、私の胸中にあった 2 つの思いが記されています。一つは、教員にふさわしい人材を養成しようとする以上、その養成過程には一定の厳しさが必要なのではないかと、ということ。もう一つは、厳しさだけで良い人材が育つわけではないので、本学の家族主義を活かした愛情や寛容さも必要なのではないかと、ということです。退職を目前にした現在も、その思いに変わりはありません。私としては、このような思いが関係者の中で広く共有され、教職課程で学ぶ学生が教職への希望を抱き続けられるように、また、不幸にして、教員採用試験に合格できなかった場合にも、教職課程で学んだことに喜びと意義を見出せるように、本学の教職課程を運営していただければと思っています。幸せな教員生活を送らせていただきましたお礼を申し上げ、さらに皆様のご健勝・ご健闘をお祈りして、擲筆いたします。

事務連絡

<本学教職課程の概要について>

(1) 取得可能な免許種

高千穂大学教職課程では、以下の免許を取得することができます。免許状はすべて一種教育職員免許状です。

学部	専攻	取得可能な免許種
商学部		高等学校(商業)／高等学校(公民)／高等学校(地理歴史)／ 中学校(社会)
経営学部		高等学校(商業)／高等学校(情報)
人間科学部	人間科学	
	児童教育	小学校(全科)

※ 商学部では、高等学校(情報)／ 経営学部では、高等学校(公民)(地理歴史)・中学校(社会)免許状取得も可能。

(2) 年間行事

教職課程では、教職課程運営委員会の下、主に以下の行事を実施しています。

月	行事	内容
4 月	履修オリエンテーション	春学期履修に向け、学年ごとに実施します。
7 月	教育実習報告会	教育実習を終えた学生から、教育実習の体験をお伺いします。
8 月	教員採用試験対策講座	教員採用を目指す 3・4 年生の希望者を対象に、採用試験対策講座を行っています。
9 月	履修オリエンテーション	秋学期履修に向け、学年ごとに実施します。
11 月	新規履修者オリエンテーション	新規履修希望者向けにオリエンテーションを実施しています。
2 月	教職課程新規履修者面接	教職課程新規履修者希望者を対象に、面接を行い、履修の可否を決定します。
	教員採用試験合格報告会 卒業生教員の会	教員採用試験合格者及びお招きした OB・OG 教員より、合格までの道のりや教員生活の心構えなどをお話頂きます。

※教職課程履修者は「オリエンテーション」「教育実習報告会」「教員採用試験合格報告会」参加が義務付けられます。

卒業生及び卒業された皆様へ

- 勤務先の変更・ご自宅の住所変更時
 - 「学力に関する証明書」「単位取得証明書」等、証明書が必要な時
 - 教職課程及び就職課に対する、私立学校からの求人を知りたい時
- 以上の際には、学務部 教務課(TEL:03-3313-0146)までお問い合わせください。

<目次>

- ご挨拶…………… p.1
- 行事紹介…………… p.2
- 退職の挨拶…………… p.3
- ご報告・事務連絡・奥付…………… p.4

「高千穂大学教職課程だより」第7号 2021年3月20日発行

<2020年度 教職課程運営委員会>

- 委員長 鈴木隆弘 常任委員 松丸啓子
- 委員 齋藤元紀 委員 楠美将彦 委員 松丸明弘
- 委員 松丸修三 委員 山田良一 教務課 北田大介・山本路子